

「来るべき国難級災害に備えて 2021」

令和2年度成果発表会

理事長 林 春男

未曾有の災害となった東日本大震災の発生から10年になります。犠牲になられた方に哀悼の意を表するとともに、被災地の皆様の復旧・復興に向けたご苦労に敬意を表します。

さて、防災科研の研究開発の成果を広く一般の方々に知っていただくため、令和2年度の成果発表会を、2021年2月10日(水)に、東京国際フォーラムでの会場参加に加え、場所・人数に制限なく参加・視聴できるオンライン配信を行うハイブリッド方式で実施しました。昨年度に引き続き池上彰氏を特別ゲストコメンテーターにお迎えし、「来るべき国難級災害に備えて2021」をテーマとして3部構成で開催しました。緊急事態宣言下ということもあり、会場参加は60名に限らせていただきましたが、全体として1,100名を超える方々にご参加、ご視聴いただき、盛況のうちに終了することができました。

第1部では、「ぜひ使ってほしい、防災科研の新たな情報プロダクト」と題して、国家レジリエンス研究推進センターの清水慎吾研究員、火山防災研究部門の上田英樹研究員、災害過程研究部門の鈴木進吾研究員、首都圏レジリエンス研究推進センターの岩波越研究員の4名が、防災科研が令和2年度に公開した4つの情報プロダクトを紹介しました。

第2部では、昨年度まで成果発表会会場でポスター形式で実施してきた研究員の研究成果発表がコロナ禍によりできなくなったため、今年度は新しいスタイルの成果発表の方法として、研究者一人ひとりが動画による研究成果発表を行いました。2020年12月23日(水)からウェブサイトで120本の動画の公開を始め、皆様からの高評価数でベスト10を選出しました。その中から、マルチハザードリスク評価研究部門の先名重樹研究員の「地下構造モデルの構築と社会実装」、マルチハザードリスク評価研究部門の内山庄一郎研究員の「ドローン災害対応システム GEORIS (ジオリス) の紹介」、防災情報研究部門の伊勢正研究員の「SIP4D

による災害情報の広域共有～効果的な災害情報の活用のために～」の3本を優秀研究動画賞に選び、本人も登壇して、動画を紹介しました。

第3部では、『「東北地方太平洋沖地震」の教訓を南海トラフ地震へ』と題して、地震津波防災研究部門/地震津波火山ネットワークセンターの汐見勝彦研究員が「地震観測網がとらえた東北地方太平洋沖地震」、マルチハザードリスク評価研究部門の中村洋光研究員が「巨大地震の多様な発生の可能性に備えるためのハザード・リスク評価」、地震津波防災研究部門の齊藤竜彦研究員が「室内実験とシミュレーションで迫る巨大地震の震源像」、地震津波火山ネットワークセンター/南海トラフ海底地震津波観測網整備推進本部の青井真研究員が「南海トラフ巨大地震に備えるための新たな観測網 N-net ～東日本大震災を教訓に～」について講演しました。それを受けて、池上彰氏をモデレーターとして、首都圏レジリエンス研究推進センター長の平田直参与と私も指定討論者として加わり、東北地方太平洋沖地震を契機として地震学に起きた大きな進展についてパネルディスカッションを行いました。

来年度の成果発表会は、2022年2月28日(月)に引き続き池上彰氏を特別ゲストコメンテーターにお迎えし、「来るべき国難級災害に備えて2022」として、予想される被害をいかに軽減するかをテーマに開催いたします。防災科研は、これからもあらゆる種類の自然災害を対象として、予測・予防・対応・回復のすべての段階について、総合的な研究開発を進め、皆様の命と暮らしを支えてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

